

第67号

発行日  
令和5年1月27日

# 木協だより

発行所 一般社団法人埼玉県木材協会  
発行責任者 島崎 政敏  
編集責任者 佐野 目哉  
〒330-0071  
さいたま市浦和区上木崎6-37-17  
TEL 048-822-2568  
FAX 048-824-0720

念を抱きつつ、信仰のための

これはあの東日本大震災の  
後でさえ、変わることはあり  
ませんでした。しかし、年々  
激甚化する自然災害、止めら  
れない侵略戦争、世界を覆う  
疫病など思いつく、質問を申し  
上げる気持ちにも複雑なもの  
があります。

それでも、未だ記憶に新し  
いサッカーワールドカップで  
の日本チームの活躍を思い起  
こします。と、こんなに厳しい  
状況であっても、しっかりと耐  
えて勇気を持ってやるべき事  
をやり続けることで、事態は  
変えられると思えてきます。

近年、気候変動の兆候があ  
らわになる中で木材利用促進  
の気運は増していますが、こ  
れは私たち日本人にとってま  
さに古くからの習俗に立ちか  
えることに他なりません。私  
たちには、恵まれた環境の中  
生育する山々の樹木に畏敬の



## 島崎会長年頭あいさつ 日本の木の文化を守り木材利用の新たな道を拓こう



埼玉県木材協会は、さいたま市浦和区高砂のこれまでの仮事務所からさいたま市浦和区上木崎の新事務所に移転しました。



### 新事務所に移転しました

建物や生活の多くの場面に利用して育んだ「木の文化」があります。しかし、永い間これを支えてきた大工、建具職人、指物師といった木を知る人たちは減少の一途を辿っていますから、これからは私たち木材業者の役割がより大きくならざるを得ません。

先日のウッドショックはコロナによる世界的物流の停滞と日本の国際的購買力の低下が

主な原因で起こったと思いますが、極端な木材不足により多くの工事がストップしかねなかったあの現場で、日本の建設業界延いては日本経済を救ったのも、様々なサプライチェーンが途切れてしまった中で決して諦めることなくやるべき事をやり続けた流通の木材業者たちによる既存流通システムを拠り所とした、懸命の集荷であり納材であっ

なお、電話番号、FAX番号、メールアドレスは変更ありません。



移転作業の際には、多くの方々の協力を賜り、ありがとうございました。また、移転作業に伴う工事のため、電話やメールが不通になる時間が発生し、ご迷惑をおかけしましたことをご詫言ひ申し上げます。

【新事務所】  
〒330-0071  
さいたま市浦和区上木崎6丁目37番17号



## 第56回 全国木材産業振興大会開催 星野洋一郎氏おめでとうございませう

「ウッドチェンジ！〜暮らしにもっと木を取り入れよう」をメインテーマに掲げた第56回全国木材産業振興大会が、10月27日（木）、福島県郡山市の「磐梯熱湯温泉ホテル華の湯」において、全国から約400名が参加し盛大に開催されました。

その後、大会宣言（左記参照）の朗読、決議、決意表明が行われました。

た。自ら「日本酒の神様」と称し、ユーモアたっぷりのお酒のお話は、そのあと開催されました懇親会のお酒を一層味わい深くさせてくれました。

### 第56回全国木材産業振興大会 ウッドチェンジ！ 暮らしにもっと木を取り入れよう 宣言決議

木材利用の拡大は、森林・林業の活性化のみならず地球温暖化防止、地方創生、国土強靱化などを進め、豊かな暮らしや持続可能な社会の実現に大きく貢献するものであり、森林資源が充実しつつある中、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用の確立が重要な課題である。全国各地で木造施設等が数多く建設されるようになり、都市部の建築物の木造化・木質化が進み始めている。これは木材を優先して活用する「ウッドファースト社会」の実現に向けて、政府、学識、経済界に訴えてきた我々の活動の成果と認識している。

1. 都市（まち）の木造化等木材利用を積極的に働きかけるとともに、国民理解の醸成に取り組む。
2. 森林資源の循環利用を実現するため、山元への利益の還元と再造林できる体制の構築に森林・林業、建築業界と一体となって取り組む。
3. 木材産業振興のため、予算の確保、税制特例措置の継続に取り組む。
4. 新たな木材需要を創出するため、技術開発・普及等に取り組む。
5. 合法伐採木材やJAS製品等、品質・性能の確かな木材供給や人材の育成確保に取り組む。
6. 木材産業従事者の労働安全確保に全力を挙げ、死亡災害の絶滅に取り組む。

最後の次期開催地の平方群馬県木連会長の挨拶では、島崎会長も半被姿で壇上に立ち、来年の開催を関東支部が協力して盛り上げる姿を披露いたしました。



星野洋一郎氏（2列目中央）



関東支部の皆様（島崎会長 左から2人目）



# 先進地視察報告 浪江町・福島高度集成材製造センター (FLAM)

全国木材産業振興大会の翌日(10月28日)、島崎会長以下7名で先進地視察を行いました。視察先は福島高度集成材製造センターで、この施設を管理運営する株式会社ウッドコア(本社・浪江町)様にご案内いただきました。

この施設は、震災復興事業の一環として、原木加工から集成材までを一貫生産できる国内最大規模の施設として整備されました。当日は、原木置き場から製材機、大型乾燥機を見た後、①「フミノ選別ライン」(強度・材面選別)、②「フイン

ガージョイントライン」(縦継ぎ接着)、③「ラミナ仕上げ多段コンベアライン」(ラミナ仕組み)、④「高周波プレスライン」(積層接着)、⑤「製品仕上げライン」(定寸カット、四面削り)、⑥「メガプレス」(二次接着プレス)、⑦「製品仕上げ、組み立てヤード」、⑧「CN加工機フルトラ」(部材のプレカット)など最先端の集成材製造工場を見学しました。



集成材製造工場

非住宅の木造建築が注目される中、中大断面集成材の量産につながる可能性を感じ、大変有意義な視察となりました。

会員事業所を毎日ご紹介するコーナーです。連載5回目。今回ご紹介するのは、笠井木材株式会社です。

## 人・家・街のしあわせを作る会社

笠井木材株式会社は、昭和46(1971)年の創業以来、五十余年に渡り、地元である埼玉県春日部市に根を生やしてきた会社です。その事業は文字通り木材を柱として、様々な広がり続けてきました。基本事業である「木材・住



会社の社是。それを守りながら、常にお客様と対話を重ね、一緒に考えながら、「お客様が住まう・仕事をされる場所」として最も心地よい場所を提供することこそが目標です。「人・家・街のしあわせを作る会社」。そのコピーに嘘がない仕事を、今日も、これからも目指します。

## 連載 会員事業所訪問(5) 春日部木材商組合 笠井木材株式会社



さいたま県産木材  
さいたま県産木材認証センター

令和4年度彩の木補助事業の交付申請状況を報告します。彩の木補助事業の実施は、今年度で9年目となります。会員のみならずお陰をもちまして、県内の多くの工務店に浸透してきました。

しかし、ウッドショックの影響を大きく受けた令和3年度と同様に、今年度も残念ながら受付件数は伸び悩んでいます。今年度は、「一般枠」「子育て世帯枠」「梁桁枠」「森林認証材・JAS材枠」の4つの区分で、昨年6月1日から受け付けを開始しました。

6月は70件を超える申請がありました。その後は毎月10件台と低迷し、1月25日現在の申請状況は、下記のとおりとなっています。

今年度の特徴として、建築(施工)工務店に大きな偏りがあり、全件数109件のうち109件が5社で占められています。

## 彩の木補助事業交付申請状況



なお、交付申請の受付期間は令和5年2月3日(金)必着となっております。お問い合わせ・相談は、埼玉県木材協会 048(0002)25000まで、どんな些細なことでも遠慮なくどうぞ！

1月25日現在の状況	「一般枠」	予定数 100件程度
	受付数 83件	
	「子育て世帯枠」※5万円の加算あり	予定数 700件程度
	受付数 303件	
	「梁桁枠」※5万円の加算あり	予定数 200件程度
	受付数 46件	
	「森林認証材・JAS材枠」※5万円の加算あり	予定数 100件程度
	受付数 2件	
	【合計】	予定数 2000件程度
	受付数 1009件(昨年度185件)	



住宅機器の販売は、創業50年の歴史が積み重ねてきた経験と知識に裏打ちされた、熟練のスタッフが対応。現在の主要事業である「一戸建て住宅の新築・リフォーム」においては、柔らかな手触りと温もり溢れた木材が醸し出す、安らぎと伝統と、使いやすいと居心地の良さに加えて、安全性を重んじた「現代性」という、双極にある二点を融合させた「理想の家」づくりを、お客様と徹底的に話すことで叶えることを目指しています。

質実住宅を趣向とするお客様たちの「一度はこんなところに住んでみたい」を実現する、美しい「木造賃貸集合住宅の建築」や、伝統技術をつ

・役立つ仕事はすべて、価値あるものと認識する  
・常に「高潔さ」を持って仕事に取り組み  
・次世代のキャリア目標を支援・指導する  
社員一同が常にご約束を念頭におきながら、お客様と、社会と向き合うことが、笠井木材という

## 行事予定

- 令和5年4月28日(金)  
一般社団法人埼玉県木材協会 理事会  
場所: 浦和コミュニティセンター (JR浦和駅)
- 令和5年5月19日(金)  
一般社団法人埼玉県木材協会 総会  
場所: 埼玉会館 (JR浦和駅)



笠井木材株式会社様、お忙しい中ご対応いただき、ありがとうございました。

## 木の日のイベント

10月8日の「木材利用促進の日(木の日)」に、JR浦和駅前の商業施設「CORSO」において、木の日のイベントを実施しました。当日は土曜日ということもあり家族連れが多く、買い物の合間に立ち寄ってくださる方々で賑わいました。

## プロ養成講座

埼玉県木造公共施設推進協議会(事務局・埼玉県木材協会)が主催の「中大規模木造建築 地域を育てるプロ養成講座」を、6月から10月まで全5回開催しました。参加者は県市町村職員をはじめとする38名で、建築士以外の方も多くいらっしました。

## 木工工作コンクール

第43回埼玉真児童・生徒木工工作コンクールを、3年ぶりに開催しました。今回から、学校単位の募集をやめ、WEBによる応募としました。令和2年度、3年度とコロナの影響により開催を見合わせたことから、作品

## 埼玉県木材協会 活動報告

がどのくらい集まるのか心配していましたが、県内各地から103作品の応募がありました。このうち二次審査に進んだ59作品の展示を埼玉県農林公園で行い、埼玉県知事賞2点、埼玉県教育長賞1点、日本木材青年団体連合会会長賞1点、埼玉県木材協会会長賞10点ほかを選考しました。また、左記の3作品は、日本木材青年団体連合会主催の全国コンクールに出品しました。



埼玉県教育長賞



埼玉県知事賞 (中学校の部)



埼玉県知事賞 (小学校の部)